

Title	科学，そして改竄と捏造
Author(s)	鈴木，昌
Journal	歯科学報，118(3)：3i-3i
URL	http://hdl.handle.net/10130/4634
Right	
Description	



科学，そして改竄と捏造

鈴木 昌

科学の基本的条件とは、実証性、再現性、客観性にある。このうち、実証性とは、考えられた仮説が観察や実験によって検討できること、再現性とは、仮説を観察や実験を通して実証するとき、時間や場所を変えて複数回行って同一の実験条件下で同一の結果が得られること、そして、客観性とは、実証性や再現性という条件を満足することにより、多くの人々によって承認され、公認されることである。また、「科学的」とは、これら条件の検討手続きを重視する姿勢である。実は、これは小学校学習指導要領(理科)からの引用である。小学生の頃、夏休みの宿題として朝顔の観察をして毎日その絵日記を書いていたが、これは、まさに科学的姿勢を涵養する基礎であった。

医療系科学の世界では、本年4月1日から臨床研究法による当局規制が入るようになった。この背景には大規模な、あるいは重大な研究不正の発覚があった。高血圧に対する薬剤やSTAP細胞事件など、いまだに記憶に新しい。国際的に認定されている研究不正とは、改竄、捏造、盗用である。改竄とは研究資料や機器などを操作して結果を変更したり、都合よく除外して、研究の結果を変えてしまうことである。捏造とは、いわゆる「でっち上げ」である。盗用はいわずもがなである。例えば、髪の毛を茶色に染めているのは改竄である。かつらを着用していれば、それは捏造である。話はそれだが、悲しいかな、人生とは捏造と改竄の歴史なのかもしれない。

医歯学系研究に直接的関係がなくても、医療の世界では、「科学的見地」が重視される。我々は診断法や治療法の選択をする場合に、科学的根拠に依拠しなければならない。科学的根拠といえ、最新の論文に基づいて最新の治療を施すことだと妄信されるが、果たしてそうであろうか。日々の臨床でも、カルテに捏造や改竄が許されざることは言うまでもないが、我々の臨床そのものは、医師の思い込みや臨床データの恣意的解釈などなど、「捏造や改竄」ばかりなのではないかと思わざるを得ない。夏目漱石曰く、「嘘はフグ汁である。その場限りで崇りがなければこれほど旨いものはない。しかし、あたっては最後苦しい血もはかねばならぬ」。まさにその通りである。

本稿を執筆している3月下旬は、新聞やテレビニュース、あるいは国権の最高機関である国会では「改竄」が大きな話題になっている。上記に照らして、「改竄」なのか、「書き換え」なのか。あるいは、そもそも「事件」とはマスコミによる「捏造」なのか、など議論が絶えない。筆者は、真相について知る立ち場がない。科学的視点から、すなわち、実証性、再現性、客観性に照らしていかなる判断となるのであろうか。

歯「科学」報の巻頭にあたり、「科学」、そして、「改竄と捏造」とを取り上げた。小学校学習指導要領を思い出して、「科学」とは何かを再度噛みしめてみたい。

(東京歯科大学市川総合病院救急科 教授)